

あとがき

群馬県地域結集型研究開発プログラムは、平成18年1月から「環境に調和した地域産業創出プロジェクト」として、畜産振興と環境保全の両立、地域産業振興のために、事業化・企業化を指向した研究開発を開始しました。

私は、前橋商工会議所会頭ということもありますが、もともと飼料商で、多くの畜産現場を見て参りましたので、畜産振興の重要性や畜産農家の皆さんが地域住民の理解を得るために腐心している実情を理解しております。このような経験や思いがあり、本プロジェクトの企業化統括という重責をお引き受けいたしました。

本事業推進のため、代表研究者の群馬工業高等専門学校 特命教授 小島昭先生、テーマリーダーの群馬大学大学院工学研究科 教授 宝田恭之先生、渡邊智秀先生には的確な研究開発の舵取りを行っていただきました。また、参画研究者の皆さまには、現場で役立つ研究開発を行い、事業化・企業化を目指すという本事業目的を常に意識していただくことができました。

5ヶ年の事業期間が終了しましたが、この間に数多くの成果が得られたと確信しております。「脱臭装置」は、畜産農家が気にしている臭気対策の解決策になると考えています。県当局の御配慮もあり、11基の脱臭装置が畜産現場に導入され、効果を発揮しています。尿汚水高度処理技術や低温ガス化技術についても、畜産現場での実証試験を畜産農家の御理解を得ながら行うことができました。今後は、これまでの成果を畜産現場に導入しやすいシステムを構築することや畜産業以外の分野に積極的な展開を図っていくこと、事業化目前のテーマについては研究継続することに努めて参ります。このようにして、県民国民の皆さんに事業成果を還元するように、私も微力ながら協力して参ります。

私は、このプロジェクトで多くの成果を生み出すことができたのは、

- ①代表研究者の強力なリーダーシップ、テーマリーダーの指導力、プロジェクトマネージャーのマネージメント
- ②参画研究者が本事業目的をしっかりと理解し、向かう真摯な姿勢
- ③畜産農家をはじめ県民の皆さんに理解していただく取り組み
- ④（財）群馬県産業支援機構の支援体制

が大きな要因であると考えております。

本事業運営を通して、企業が目標を明確にして開発に取り組み、大学は研究シーズの提供や応用研究をすすめることで企業との研究開発を推進し、行政機関がこれを支援するという産学官連携による研究開発の重要性を改めて認識いたしました。

本プロジェクトは、（独）科学技術振興機構の御支援により事業関係者に多くの経験を積ませていただく機会を御提供いただきました。改めて、本事業を御支援いただいた文部科学省、（独）科学技術振興機構、群馬県、（財）群馬県産業支援機構、関係各位に心から御礼を申し上げます。

企業化統括 曾我孝之（前橋商工会議所会頭）